

調査目的

総務省が実施した「地域づくり人育成講座」、「全国地域づくり人財塾」の既受講生の動向を把握し、本講座の効果や改善等を概観する。

調査対象・方法

人財塾等への申し込みをした都道府県・市町村の担当窓口を通じて既受講生に対してメールにて調査票を配布し回収した。

調査期間

平成25年12月4日(水)～20日(金)

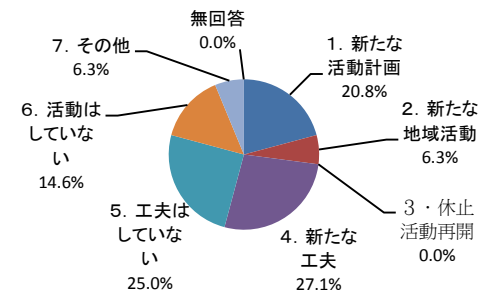
回収数

48件  
(平成23～25年度までのJIAM既受講者178名を対象に調査)  
(回収数には一部、JAMP既受講者を含む)

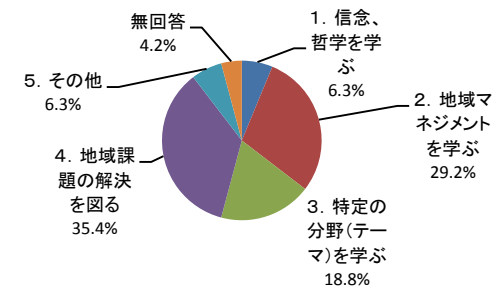
結果概要

- 受講による意識変化は、「コミュニケーションを増やす」など多面的。
- 行動の変化としては、「新たな工夫」や「新たな計画」など半数以上がアクションを起こす。起していないケースは「経験不足」・「変えるきっかけがない」など。
- 修了生が感じる人財塾の効果は「活動の企画・行動のヒントの獲得」・「モチベーションの向上」。
- 人財塾の改善点は「フィールドワークの導入」・「演習時間を増やす」・「ディスカッション時間を増やす」。全体的に「時間が足りない」という意見も。
- 現在、修了生が感じている課題は、「時間」・「資金」という環境的な課題のほか、「知識」・「意欲」・「(行動をおこす)勇気」といったノウハウ的な課題も感じている。
- このため、今後、受けた研修は、「それぞれの地域課題をとりあげ、その解決を図る研修」、「事業計画づくりなどの地域マネジメントを学ぶ研修」に対する要望が高い。
- 今後、更に受けた研修のカリキュラムは、「ワークショップ」・「フィールドワーク」・「ディスカッション」といった参加型研修に対する要望が高い(学習型のニーズは低い)。
- 最上位のレベルの研修としては「コーディネーターとしての実践研修」・「プロジェクトの企画実証実験研修」・「全国の修了生と議論する勉強会型研修」に対する要望が高い。

現在の地域づくり活動の状況



今後受講したい研修での学習内容



今後受けた研修のカリキュラム

